

1 生徒指導の重点

(1) 目標

学校目標「夢に向かって ふみ出す一歩」の具現化のために、より確かな児童理解と全職員の共通理解を基本にすえ、「自分の夢や目標の実現のために、課題に向き合う強い心を持ち、解決のために意欲的に取り組む児童を育てる生徒指導」を目指す。

《 指導の重点 》

- 1 自己有用感をはぐくむ集団づくり
- 2 校内外の安全なくらし
- 3 いじめ・不登校対策
- 4 基本的な生活習慣の定着
- 5 情報モラル教育

(2) 児童の実態

① 自己有用感をはぐくむ集団づくり

本校の児童は、決められた事柄にしっかりと取り組もうとする児童が多く、爽やかなあいさつや受け答えをしようとする児童も多い。また、学校をより良くしたいという思いをもっている児童も多い。

しかし、集団の中でそれを行動に移したり、リーダーシップを取って周囲に呼びかけたりする児童は多くない。そのため、集団の中で自己有用感を感じる事が少なく、自己評価も低い傾向にある。これを本校の課題として全職員が意識し、児童が自由に自己表現することができて、お互いに認め合える人間関係づくりに力を入れる必要がある。

② 校内外の安全なくらし

各避難訓練がしっかり実施され、さらにそれに取り組む児童が真剣であり安全に対する意識は向上してきている。また、不審者対策に関しても、安全教室が開かれ、児童の意識も向上しつつある。

しかしながら、実際の自転車の利用の仕方には個人差があり、継続して交通安全の意識を高めていく必要がある。また、不審者対応についても、これまで以上に児童の対処法の選択肢を広げるような指導が必要である。

③ いじめ・不登校対策

現在、不登校の児童が1名おり、学級担任をはじめとしたチームで対応している。家庭と学校の間を絶やさず、そして関係機関と連携しながら解決の手立てを探っている。また、いじめに関しては、「いじめ防止基本方針」(別紙)に則り、未然防止に努めるとともに、いじめ発生時には組織的に対応できるようにする。

④ 基本的な生活習慣の定着

就寝時間や起床時間がまちまちで、朝食を摂らずに学校に登校する児童もおり、生活習慣の乱れが学校生活に影響を及ぼしている児童もいることから、家庭と連携して基本的な生活習慣を定着させていく必要がある。

⑤ 情報モラル教育

昨年度、4年生以上を対象とした「携帯電話等、インターネット利用実態調査」を行ったところ、約9割の児童が「自分専用のスマートフォンや携帯電話、通信機能付き端末」を所持していることがわかった。また、1件のネットトラブルがあったことが分かった。トラブルの内容としては、「誹謗・中傷」であったが、調査の際に上がっていないだけで実際には更に多くのトラブルが起こっていることが推測される。昨年度は5・6年生を対象に、「情報モラル教室」を開催し、インターネットやゲームとの上手な付き合い方を学んだ。さらに、家庭内での利用について、保護者と約束を決めていない児童も多数いることも分かった。そのため、昨年度は長期休みの前に「メディア利用チェック表」を配布し、各家庭でのメディア利用の約束を取り決める機会を設けた。学校から呼びかけることによって保護者のメディア利用に対する関心は少しずつ高まっていると感じる。

学校でも、ICT機器を活用するようになり、子どもたちにとってインターネットが今まで以上に身近なものになっている。今後何かしらのトラブル発生の可能性が危惧されるため、児童への情報モラル教育の必要性を感じるとともに、保護者に対するさらなる啓発が必要であると考えられる。

(3) 具体的な目標

- ① 教師自らが心を開き、日常の人間的な触れ合いの中で、共感的理解と適切な対応に基づく指導・支援に努め、共感的な人間関係の確立を図り、児童一人一人に集団の中での存在感を感得させるとともに、他を思いやる心と態度を身に付けさせる。
- ② 発達段階に応じた具体的な安全指導を充実させ、児童の安全に対する意識を向上させるとともに、実践的な態度を育てる。
- ③ 全校体制による対応、関係機関との連携等による組織的・計画的な対応を心がけ、いじめや不登校の未然防止に努める。
- ④ 家庭との連携を図りながら、児童の基本的な生活習慣の定着に努める。
- ⑤ 家庭との連携を図りながら、携帯電話、ネットトラブル等の未然防止に努める。

(4) 目標達成のための方策

① 自己有用感をはぐくむ集団づくり

ア 子どもたちの実態把握

- ・観察，学校生活におけるアンケート調査，教育相談等

イ 教師と児童との信頼関係づくり

- ・学級経営方針の発信，教育相談や個別指導，声かけ，細やかな気配り，児童を生かす学級活動

ウ 児童同士の間関係づくり

- ・学級活動の充実，構成的グループエンカウンターの実施，係活動を通じた人間関係づくり，縦割り活動（ゆりの木グループ）等がかかわる喜びを得ることができる活動の設定，全職員による適切な支援

エ 学級集団づくり

- ・共感的な学び合いのある授業，学級内の諸問題解決への努力，学校行事への積極的な取組

② 校内外の安全なくらし

ア 命の重さを実感させる実効的な交通安全指導

イ 児童の危険回避能力の育成と不審者訓練の充実

ウ 校区内や通学路の危険箇所マップ作成

エ 地区子ども会の実施（年4回）

③ いじめ・不登校対策

ア 子どもたちの実態把握

イ 孤立気味の児童への対応

- ・全職員による声かけ・教育相談の充実・保護者との連携

ウ 心情や態度を育む授業の展開

エ 子どもの情報を共有する体制の整備（児童を語る会 年2回）

オ 組織的な対応の研修

カ 規範意識の醸成

④ 基本的な生活習慣の確立

ア 子どもたちの実態把握

イ 徹底指導事項の確認

ウ 毎月の生活目標の掲示

エ 「休み中のくらし」の発行

⑤ 情報モラル教育

ア 子どもたちの実態把握

イ 携帯電話，インターネットの利用についての指導

ウ 総合的な学習の時間等における情報モラル教育

エ ネットトラブルの対応についての職員研修